



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 101) uniwish28号 (2018年8月)
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



5歳まで生きられない子どもたち 年間560万人

世界の子どもの生存状況は、この四半世紀でめざましく改善しました。しかし改善の度合いは全世界で一様ではなく、子どもの死がより貧しい地域へと急速に集中しつつあります。

サハラ以南のアフリカ286万人 (50.7%)、南アジア171万人 (30.4%)、その他103万人 (18.9%) となっています。5歳の誕生日を迎えられずに消えゆく、小さな命。この命をひとつでも多く守りたい。それがユニセフの願いです。

予防接種

予防接種を受けられる子どもの割合
 DTP3(ジフテリア・破傷風・百日咳)ワクチンの
 乳児接種率



© UNICEF/UNI199177/Panday
 赤道ギニアとウクライナ



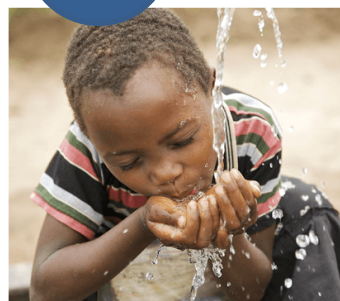
10人中1.9人

※最もDTP3の乳児接種率が低い国 (ウクライナは2014年の紛争勃発後、大幅に低下)

日本でなら当たり前に行うことができる予防接種を受けられず、世界では年間150万人もの5歳未満児が、予防可能な病気によって命を落としています。(出典:ユニセフ『世界子供白書』2017)

安全な水

安全な水が自宅でいつでも飲める人の割合



© UNICEF/UNI130966/Noorani
 サハラ以南のアフリカ

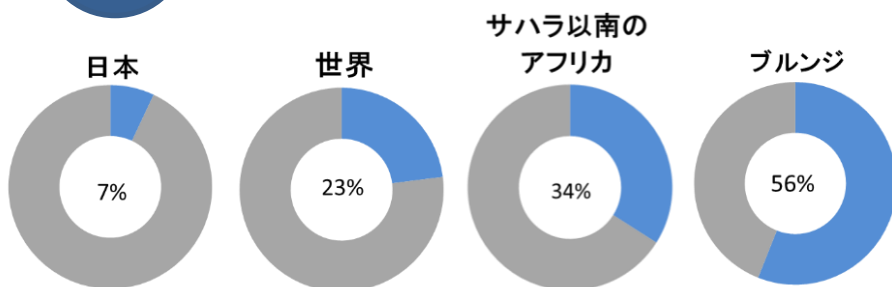


10人中2.4人

下痢による幼い子どもの死亡数は年間48万人。その6割が池や川などの不衛生な水しか飲めなかったり、トイレがなかったりするために起きています。(出典:ユニセフ・WHO『衛生施設と飲料水の前進』2017)

慢性栄養不良

各地域における慢性栄養不良の子どもの割合



幼い子どもの生存にとって、慢性的な栄養不足は深刻な問題です。世界の乳幼児の4人に1人、1億5,500万人が慢性栄養不良に陥っています。そのうち実に1億2,200万人が紛争下の国に暮らしています。(出典:ユニセフ『世界子供白書』2017)



© UNICEF/UN0146021/Schermbrucker

世界中すべての子どもに生きるチャンスを！

最も弱い子どもたちに支援を届ける取り組みは、最も多くの命を守る効果的な支援につながります。

南スーダン 子ども兵士100人以上、武装勢力から解放 今年4回目、計900人解放、さらなる解放に期待 ユニセフ、社会復帰プログラムを支援

【2018年8月7日 ヤンビオ（南スーダン） 発】

8月7日、南スーダンの2つの武装グループは、100人以上の子どもたちを解放しました。これで、今年に入って解放された子どもの数は900人を超えました。



◎ UNICEF/UN0228034/
武装グループから解放され、式典に参加する子どもたち。(2018年8月7日撮影)

【さらなる解放に期待】

今年4回目の解放式典は、過去2回と同様に、南スーダン南部のヤンビオで行われました。今後数カ月に、さらなる解放が期待されています。「今年のこれまでの成果は、現在も武装グループにより徴兵・徴用されている1万9,000人の子どもたち全員の解放を期待させるものです」とユニセフ・南スーダン事務所代表のマヒンボ・ムドエは述べました。「その目標が達成されるまで、子どもの徴兵・徴用を終わらせるための活動は続けなければなりません」

解放式典で、子どもたちは正式に武器を引渡し、軍服を脱ぎ、民間人の服を受け取りました。彼らは健康診断を受けた後、ユニセフとパートナー団体が提供する社会復帰プログラムで、カウンセリングや心理社会的ケアを受けます。

【社会復帰プログラムを支援】

子どもたちは家に戻るときに、社会復帰の初期段階の支援として、家族の3カ月分の食糧を世界食糧計画（WFP）から提供されます。その後、家庭の収入を増やしたり食べ物を十分確保できるよう、職業訓練を受けます。経済的に自立できないことは、子どもたちが武装グループと関係をもつ主要な要因になり得ます。こうした生計向上支援に加えて、ユニセフとパートナー団体は、解放された子どもたちが、心理社会的ケアや学校や学習センターで年齢に応じた教育を確実に受けられるよう支援します。

「これまでの子どもたちの解放は、ユニセフ、国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）、および政府関係者が協力して努力した成果です。紛争当事者との交渉は、すべての関係者による多大な労力と決意を要するものです」とムドエは言いました。「私たちのパートナー団体ならびに政府の関係者の方々が、南スーダンの子どもたちのために尽力頂いたことに心から感謝します」

今回解放された子ども128人（男子90人、女子38人）のほとんどは、2016年に政府との和平合意に署名し、現在その兵士たちが政府軍に統合されている南スーダン人民解放運動（SSNLM）から、また少数がスーダン人民解放運動反対派（SPLA-IO）から解放されました。



◎ UNICEF/UN0228033/
式典に参加し、支援物資を受け取った子ども。(2018年8月7日撮影)

【学びの場を奪われる子どもたち】



◎ UNICEF/UNI179440/Campeanu

南スーダンでは、ユニセフの支援のもと、2015年より「再び学ぼう（バック・トゥ・ラーニング）」キャンペーンを展開し、紛争や通学距離、家計などの理由で学校に通っていない子どもたちに、学習の機会を提供している。

2013年以降、紛争により学校の3校に1校は、破壊・損壊し、占領され、あるいは閉鎖され、何十万人もの子どもたちが学校に通えなくなっています。南スーダンの非就学率は世界で最も高くなっています。学校に通っているはずの子どもの70%以上に相当する、200万人以上の子どもたちが教育を受けていません。

最も必要な人たちに支援を届ける活動も妨げられています。2013年に紛争が勃発してから、暴力の犠牲となった人道支援従事者は100人を超え、ユニセフの運転手も犠牲になりました。

世界で最も若い国が誕生した7年前には、新たな独立国家を目指して多くの難民となっていた人々が帰還しました。しかし、2013年に紛争が開始してから、子ども100万人以上を含む250万人以上が、紛争から身を守るためにふたたび近隣諸国に逃れることになりました。

ユニセフの南スーダンにおける2018年の支援活動の5つの柱のなかに次の項目が掲げられています。

①武装グループと交渉し、1,000人以上の子どもたちを解放させる。解放された子どもたちの社会復帰を手助けするための統合された支援を提供する。

②50万人の子どもに対して、公式あるいは非公式の基礎教育の機会を提供する。400以上の仮設学習スペースを設置し、1万5,000人以上の教員およびPTAメンバーに対して研修を実施する。 【資料提供：日本ユニセフ協会】

ユニセフは南スーダンで今後3年間に1万9,000人の子どもたちの解放、武装解除、および社会復帰の支援を目指しています。みなさまの温かいご支援をお願いいたします。

イエメン 子どもが乗るバスに攻撃、数十人犠牲 この惨事を紛争終結のきっかけに ユニセフ事務局長声明

【2018年8月9日 ニューヨーク発】

イエメンでバスが攻撃を受け、多数の子どもを含む一般市民が死傷したことを受けて、ユニセフ（国連児童基金）事務局長ヘンリエッタ・フォアは、迅速な紛争の終結を求める声明を発表しました。

【この惨事を紛争終結のきっかけに】

イエメンのサアダで起きたバスへの空爆は、数十人もの子どもを殺し、傷つけ、この国の残虐な戦争の中でも最悪の出来事となりました。今問われているのは、この惨事を転機とできるか、つまり紛争当事者、国連安保理、そして国際社会に、子どもたちのために正しいことを行い、この紛争を終わらせるきっかけとできるかどうかです。

ユニセフは、子どもたちの保護と国際人道法の遵守を何度となく求めてきました。これらの要求は完全に無視され続けました。

2015年以降、2,400人近くの子どものたちが殺され、3,600人以上が負傷し、何千人もの人生が損なわれ、破壊されました。病院、学校など社会インフラ施設への攻撃は珍しくなくなっています。

終わらない紛争、度重なる攻撃、さらには治安情勢や暴力による移動の制限は、私たちが1,100万人の子どもを含む最も必要としている人々に対して支援を提供することを妨げています。

この惨事を終わらせることができる者が行動を起こすまでに、さらにどれだけの子どもが苦しみ死ななければならないのでしょうか？

この数週間だけでも、ホデイダにあるユニセフが支援する給水施設と衛生施設、いずれも人々にきれいな水を提供しさらなるコレラの流行を防ぐために必要不可欠な施設が攻撃され深刻な被害を受け、何十万人もの人々の健康と生活が脅かされています。

私たちが暮らすこの世界に、このような攻撃に怯えて暮らさなければならない子どもたちがいるということは信じがたいことです。でもそれが現実です。しかし、それが子どもたちの現実である必要はないのです。紛争当事者、そして国連安保理メンバーを含め彼らに影響のある者は、子どもたちのためにこの大惨事を終わらせることが可能で、それを選択すべきなのです。

【資料提供：日本ユニセフ協会】



© UNICEF/UN0219934/
ホデイダでユニセフの緊急人道支援物資を待つ子ども。
(2018年6月30日撮影)



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 及び 贈呈式

- 4月11日（水） イエローレシート贈呈式 <イオン佐賀大和店>
- ※ イエローレシートキャンペーンとは、毎月11日にレジで発行される黄色いレシートを応援したい団体のBOX に投函すると、買いもの額の1%がその団体に寄付されるというものです。

○イエローキャンペーン参加

4月11日（水）・5月11日（金）
6月11日（月）・7月11日（水）
8月11日（土）

<イオン佐賀大和店>



○ 5月3日（木）「有田陶器市」での「シリア緊急支援」募金活動 <今右衛門窯前>

※ 今年で115回目を迎える有田陶器市は、期間中128万人を超える人出でした。

当日は朝から晴天で、陶器市会場は焼き物ファンで大賑わいでした。佐賀県UD推進室のマスコットキャラクターの「ゆうちゃん」が今年も募金活動に一役かってくれました。

子ども達は、愛らしいゆうちゃんに話しかけたり、募金をしたりと大人気でした。

※ 学生ボランティアさんが募金活動に43名も参加してくださいました。



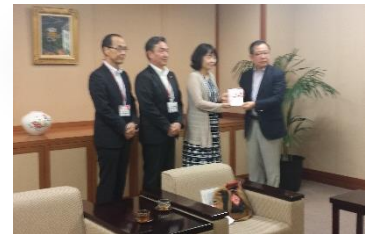
- 5月8日（火） 高木瀬小学校児童会 ユニセフ募金の贈呈＜佐賀市立高木瀬小学校＞
- 5月17日（木） ソロプチミスト有田にて卓話
「ユニセフ（国際連合児童基金）について」＜有田町大有田焼会館＞
- 5月20日（日） 第49回『青年の日』第43回
チャリティーフェスティバルで
ユニセフの紹介＜唐津市虹の松原広場＞



- 5月27日（日） 「第34回鹿島ガタリンピック」会場で募金活動 ＜鹿島市七浦海浜スポーツ公園＞
※ 佐賀県ユニセフ協会は、ガタリンピック実行委員会の皆様や東部中学校のボランティアさんの応援を
いただいて、会場内で募金活動をしました。



- 6月22日（金） コープさが生活協同組合総代会にて ユニセフ募金の贈呈式
＜アバンセホール＞
- 7月11日（水） コープさが生活協同組合代表者から中尾会長へユニセフ募金贈呈
＜佐賀新聞社＞
※ 組合員さんのご理解とご協力で「ロヒンギャ難民緊急募金」
「東ティモール指定募金」への支援



- 7月10日（火） ユニセフボランティア講座 7月3日台風のために延期 ＜佐賀市立図書館＞
・ユニセフってなあに？
・水から世界を考えよう
・「SDGs」ってなあに？
参加者と「ユニセフビンゴゲーム」
でアイスブレイキング →→→



- 7月25日（水） ユニセフパネル展・地雷レプリカ展 シリア緊急募金活動
佐賀県生協連主催 ＜アバンセ ホワイエ＞
ピースアクション2018 ～みんなで平和を考える一日にしましょう～

- 7月25日（水） ユニセフ出前授業ドリームパーク千代田中部小学校 ほし組 24名
「水から世界を考えよう」「水のろ過実験」＜神埼市立千代田中部小学校＞



- 7月31日（火） トヨタ紡織九州株式会社 従業員ご一同様から
ユニセフ募金の贈呈 ＜佐賀県ユニセフ協会事務所＞



- 8月9日（木）～8月12日（日） ＜佐賀市立図書館＞
佐賀市平和展にてユニセフパネル展&地雷レプリカ展
パネル展示：「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」



第25回 ユニセフ チャリティーバザーは大盛況でした。

5月20日(日) 14:00～15:30 佐賀玉屋本館 6階エレベーター前にて



佐賀玉屋デパートにおいて、「子どもたちに生きるチャンス」のテーマのもと、恒例のチャリティーバザー並びに募金活動を行いました。

本館6階のチャリティーバザー会場には、例年にも増して、県内外からお寄せいただいた、たくさんのバザー品が所狭しと並びました。バザー当日は、佐賀県立佐賀商業高等学校ボランティア部の皆さん5名、佐賀清和高等学校のインターアクト部の皆さん11名、北陵高等学校の皆さん17名、立正佼成会佐賀教会の皆さん6名、佐賀県ユニセフ協会ボランティアの皆さん等、総勢56名ものボランティアの皆さんのご協力をいただき、バザー品の販売や街頭募金活動を行うことができました。

ボランティアの皆さんの明るい笑顔や「ありがとうございます。」の丁寧な接客態度に、お客様も安心してお買い物をしていただくことができました。

また、高校生の皆さんには、交代で玉屋前の四つ角で街頭募金活動もしてもらいました。

バザーの売上は146,730円、同時に行った街頭募金は33,661円、合計180,391円になりました。ご協力ありがとうございました。



チャリティーバザーにご協力を願います。



【お客様に丁寧に対応する学生さん】



【多くのお客様で賑わうバザー会場】



【明るく呼びかけるボランティアの皆さん】

ボランティアの皆さんありがとうございました



学生ボランティアによる募金活動



ボランティアの皆さんの集合写真

企業・団体としてバザー品のご提供をいただいた、リコージャパン株式会社佐賀支社様、国際ソプロチミスト佐賀西部様、佐賀玉屋様、また、東京・福岡など県外から宅急便でバザー品をお送りくださった方々、県内でご支援くださっている多くの皆様、会場まで足を運んでお買い物をしてくださったたくさんのお客様、募金箱にご協力くださった皆様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、誠にありがとうございました。募金の全額を「ユニセフの通常募金」とさせていただきます。

サッカーを通して子どもたちに元気と希望を!!



サガン鳥栖のマスコットキャラクター“ウイントス”くん



日本ユニセフ協会では「**スポーツを通して子どもたちに元気を届けよう**」という活動をしています。「**チーム・ユニセフ**」は、世界中のアスリートやスポーツチーム、企業や一般の方々が、参加するスポーツを通して子どもたちを支援する活動です。

佐賀県ユニセフ協会では、今年5月13日にサガン鳥栖で、また、8月15日にはV・ファーレン長崎「**ユニセフDAY**」において、出前授業やパネル展示、募金活動などを行いました。



5月6日(日) 15:00~17:00 サガン鳥栖 ベストアメニティスタジアムにて**パネル展示と募金活動**



募金、ありがとう

5月6日(日) 15:00~17:00にベストアメニティスタジアムで、「サガン鳥栖対清水エスパルス」戦が行われました。当日は、早朝からのあいにくの雨でしたが、多くのサッカーファンが詰めかけ、サポーターもピンクのTシャツの上にブルーや透明のカップを着ての熱い応援を送っていました。5月6日の観客数は14,103人。お客さんの声援にこたえるように、両チームの選手たちは、素晴らしい技と体力とスピードで勝負に挑んでいました。



【募金活動】



【雨のため、テントの中で「ようこそチーム・ユニセフへ」展示】



ぼく、V・ファーレン長崎のヴィヴィくんです。よろしくね!

「V・ファーレン長崎」の試合会場で、「**ユニセフ DAY**」があったよ!

©2010VVN



8月15日(水) 15:00~20:00 V・ファーレン長崎 **平和を願うこどもの日『ユニセフ DAY』** トランスコスモススタジアムにて**ユニセフ出前授業やパネル展示、募金活動**を行いました。



【V・ファーレンの選手とヴィヴィくんによる募金活動】



【V・ファーレンの選手とエスコートキッズ】



【高田明社長とエスコートキッズ】



【高学年の出前授業の様子】

株式会社ジャパネットホールディングスとプロサッカーチーム「V・ファーレン長崎」は、「長崎からサッカーを通してたくさんのワクワクを生み出しながら、未来に夢と平和をつなげたい」という想いのもと、2018年より3年間、日本ユニセフ協会を通して、世界の子どもたちに教育支援や平和の想いを伝える活動をされています。

8月15日(水)は、長崎県をホームタウンとするトランスコスモススタジアムにおいて、「夏のV・ファーレン祭り」第2弾「平和を願うこどもの日 ユニセフDAY」が実施されました。スタジアムの外周では、ユニセフのブースが設置され、『チーム・ユニセフ』のパネル展示や『ユニセフと地球のともだち』の動画なども流されました。同時に、ユニセフからの出前授業やV・ファーレン長崎の選手やヴィヴィくんによる募金活動も行われました。



【ヴィヴィくんも特別出演、低学年の出前授業の様子】



【学びのあとをワークシートに書く様子】



【水瓶の重さを体験する子どもたち】



ご支援 ありがとうございます

佐賀ギター音楽院様 高木瀬小学校様 国際ソロプチミスト有田様 国際ソロプチミスト佐賀西部様
 ボーイスカウト有田第一団様 田口電機工業株式会社様 有志会様 トヨタ紡織九州株式会社様
 コープさが生活協同組合様 母子草様

今右衛門窯様 グランデはがくれ様 佐賀リハビリテーション病院様 ライフデザイン様 栗山医院様
 さが市民活動プラザ様 今泉建設(株)様 大塚製菓佐賀工場様 コープさが新栄店様 北陵高等学校様
 ヘルスランチあららぎ様 高齢・障害・求職者雇用支援機構佐賀支部様 佐賀玉屋物流係様
 門司歯科医院様 かささぎの里様 ゆめぷらっと小城様 佐賀新聞社総務部様 カイセイ薬局荒江店様
 クリーニングショップホワイト様 副島病院様 田中電子工業株式会社様 道海島小学校様
 とす市民活動センター様 佐賀玉屋様 佐賀新聞社様 リコージャパン(株)佐賀支社様 佐賀商業高等学校様
 佐賀清和高等学校様 立正佼成会佐賀教会様 立正佼成会唐津教会青年の日実行委員会様
 (株)サガン・ドリームス様 鳥栖商業高等学校様 東部中学校様 弘堂国際学園様 (税)西村会計事務所様
 鹿島ガタリンピック実行委員会様 循誘公民館様 (株)V・ファーレン長崎様 佐賀県南部地区郵便局長会様
 (順不同：2018年3月30日～8月23日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますがこの欄での
 ご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもたちの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。

これからの予定

- 9月4日（火）ユニセフ出前講座 「みつけよう 私にできるボランティア」（佐賀市 アステラス製薬佐賀支社）
- 9月15日（土）日本ユニセフ協会協定地域組織 九州地区交流会（佐賀市 佐賀新聞社）
- 10月1日（月）～6日（土）2018さが国際フェスタ出展 佐賀会場（佐賀商工ビル 国際交流プラザ）
 パネル展「アグネス シリア周辺国訪問」「ユニセフってなあに？」
- 10月13日（土）2018さが国際フェスタ出展 唐津会場（唐津文化会館）
 パネル展「シリアの小さな声」「ユニセフってなあに？」
- 10月15日（月）「世界手洗いの日」スタート
- 10月20日（土）2018さが国際フェスタ出展 玄海町会場（玄海エネルギーパーク）
 Genkai International Day ～玄海町で世界を体感する1日～
 映画「いのちのはじまり」上映会 パネル展「ユニセフってなあに？」
- 10月21日（日）～27日（土）第2回SDGs 絵画展優秀作品展示 ※表彰式 10/21（佐賀県庁県民ホール）
 ※佐賀県内の小・中学生が「持続可能な開発目標（SDGs）」について考えたことを絵で表現しています。ぜひご来場いただいて佐賀の子どもたちを応援してください。
- 11月18日（日）ユニセフのつどい2018 玉本英子さん講演会（佐賀市立図書館）
 映像最新報告「紛争地域取材して20年～イラクの女性・子どもたちを見つめて～」
 ※詳細は、同封のチラシをご覧ください。皆様のご来場をお待ち致しております。

(取材：江島きよ子)

uniwishの仲間たち!

こいし おさむ
小石 克 さん ー小城市ー

佐賀新聞社デザイナー・彫刻家

子どもたちへ良い社会残したい。



『uniwish』のロゴをデザインした小石さん



小石さんの作品

デザイナーの小石さんは、福岡県出身です。佐賀大学美術工芸科で木工を学ばれ、卒業後デザイナーとして佐賀新聞社に入社。現在は、編集本部で新聞紙面のレイアウトを担当されています。

2004年の佐賀新聞創刊120周年に佐賀新聞マスコットキャラクターの「ペーぱくん」のデザインも手掛けられています。

休日は家族3人で彫刻制作に励まれているようで、佐賀美協展では会員優秀賞を受賞されています。



【佐賀新聞のペーぱくん】

◆uniwishのロゴを制作

2011年4月に、これまでの財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部は“公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会”へと名称を変更しました。

この節目にあたり、佐賀県ユニセフ協会の機関紙の愛称を『uniwish』としました。『uniwish』とは、「unicef（ユニセフ）+wish（願い）」の造語です。「世界中の子どもたちが笑顔になれるように」との願いを込めてスタッフで話し合い愛称を決めました。そのロゴマークのデザインを小石さんが作っていただきました。

小石さんのデザインへの思い

- ◎子どもに親しみやすい雰囲気で作成。
- ◎子どもが描いたようなクレヨンタッチで。
- ◎中央のWで♡(思い)を受け渡す形に。
- ◎虹色は多様性を認めあう社会を願って。



◆子ども佐賀新聞に「世界の子どもたち」掲載

佐賀新聞に毎週日曜日に折り込まれる「子ども佐賀新聞 週刊ペーぱくん」を読まれていますか？ 小石さんは創刊号立ち上げから制作しておられました。毎号、日本ユニセフ協会の資料提供で『世界の子どもたち』が掲載されています。（←実際の記事はこちら）

◆小石さんから一言

今一番に考えているのは「次の世代の子どもたちへ、良い社会、良い環境をどう残していくか」です。現在、小城に住んで10年ですが、「小城ファシリテーション研究会」を立ち上げたり、Code for SAGAでごみ削減や事故を無くす地域活動アプリを作ったり、出前カフェをしたりと地域活動をしています。地域の課題を自分たちの力を生かして解決する“おっちゃんたち”の楽しそうな背中を見て、子どもたちが地域に愛着を持ってくれればと思います。



子ども佐賀新聞「週刊ペーぱくん」2018年8月5日号